

令和3年度後期 開志専門職大学情報学部 教育課程連携協議会 議事要旨

1. 日 時 2022年3月30日(水) 14:00~16:00
2. 会 場 米山キャンパス Y306 教室
3. 出席者 三上委員長、田代副委員長、落田委員(代理出席:山口) 木田委員
黒田委員、中野委員、原田委員、高嶋(オブザーバー)、堀川(オブザーバー)
淡路学務課・社会連携推進課課長、宮本社会連携推進課員
欠席者 山田委員
4. 会次第
 - 1) 開会の挨拶 三上委員長
 - 2) 出席者挨拶 (近況ご紹介)
オブザーバー2名含め、委員名簿順に近況報告をおこなった
 - 3) 前回議事録の確認
三上委員長より、委員全員に内容確認がおこなわれた
 - 4) 情報学部について
 - (1) 令和3年度の学部運営について
事務局淡路より、資料3に基づき2022年度情報学部入試志願者状況及び入学者について、資料4に基づき2020年度・2021年度入学者状況について、資料5により現存のカリキュラム体系、資料7によりコース認定について、資料8により資格取得に対応した科目について、資料10により2022年1月にオープンしたキャリアセンターについて説明がされた
 - (2) 令和3年度の臨地実務実習について
事務局淡路より、資料12に基づき令和3年度臨地実務実習Ⅰの実施状況報告をおこなった
 - (3) 情報学部ビジョン2030について
三上委員長より、資料13に基づき情報学部ビジョン2030について説明がされた。またオブザーバー堀川教授より資料14に基づき情報学部が輩出する人材像として多様性をキーワードに主要JOBとスキル・アビリティの組み合わせで専門職を育成する「16personalities×RPG Jobモデル」について紹介がされた
 - 5) 産業界が期待する人材像について
各委員より産業界のそれぞれの分野で期待する人材像について発表がされた
- 木田委員
資料15 iCD(i コンピテンシディクショナリ)の構造と産学連携の可能性に基づき発表がされた

iCD とは企業において IT を利活用するビジネスに求められる業務（タスク）とそれを支える IT 人材の能力や素養（スキル）を体系化したものであり、現在 iCD を活用している認証企業数が 1,236 社であること、特に「企業と学生とのマッチング」が重要である

●黒田委員

企業側は学生個々をみるのではなく出身大学（開志専門職大学はこんなカラーの大学）をみているので、まずは開志専門職大学の強み（カラー）を打ち出すために他校と差別化することが必要。その上で学生個人の個性をだしていくことになる。易い（現場で一緒にやっていけるマインド）・疾い（コーディングを早く書くスキル）・巧い（新潟という地域に合っている）の 3 つの輪が重なるような人材の育成（例としては吉野家の牛丼）が求められていると考える

●中野委員

開志専門職大学の個性をうちだす。従来の大学と違うもの。
ロジカルシンキングでもデザインシンキングでもない「アート志向」という考え方が今後は求められるのでは。実際に今年女子大学に工学部が生まれるという動きもある。専門職大学ということで専門の資格は取りつつ、個性を生かすことが大事

●原田委員

6) 今後のカリキュラム改訂について

オブザーバー高嶋教授より今後のカリキュラム改訂までの進め方について説明がされた

7) その他

三上委員長より、この会での議論を受けて、教育課程の見直しの検討をおこなうことはこの会の主要な目的の 1 つであり、「産業界が期待する人材像」について現場の意見をもらえることは大変有益な情報であること、今後も活発に意見を頂戴したいので、年に 2 回の開催を待たずに意見や情報がある方はいつでも事務局に連絡いただきたいと会を締めくくった

以上